

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	感性工学	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：感性をめぐる商品開発－その方法と実際：長沢伸也（日本出版サービス）、各種論文など。						
担当教員	長井 弘志						
到達目標							
感性評価のための諸手法や応用例を取り上げ、感性についての具体的な知識を深めることを目的とする。さらに、感性に関する評価研究例や実際の感性に働きかける製品事例について、理解を深めることを目的とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
感性工学の概念と感性の評価方法が説明できる。		感性工学の概念と2つ以上の感性の評価方法が説明できる。		感性工学の概念が説明できる。		感性工学の概念が説明できない。	
論文などから収集した具体的な感性に関する評価研究例について、プレゼンテーションを行うことができる。		具体的な感性に関する評価研究例について、プレゼンテーションを行うことができる。		具体的な感性に関する評価研究例について、レポートにまとめることができる。		具体的な感性に関する評価研究例について、レポートにまとめることができない。	
新聞、雑誌などから収集した具体的な感性に働きかける製品事例について、評価方法を検討することができる。		具体的な感性に働きかける製品事例について、評価方法を検討することができる。		具体的な感性に働きかける製品事例について、レポートにまとめることができる。		具体的な感性に働きかける製品事例について、レポートにまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
専門 A1 教養 B2 教養 C3 教養 D1 教養 D2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	感性工学とは、計量化の難しい人間の感覚や感性を技術的に取り扱えるようにするための方法論であり、人とかかわるすべての「もの」に関係する考え方である。感性の計測・評価は、感覚生理や感覚心理の問題がからんでくるため、物理的な測定と異なり、色々な工夫が必要となる。本講義では、感性評価のための諸手法や応用例を取り上げ、感性についての具体的な知識を深める。						
授業の進め方・方法	・講義前半では、座学の講義を基本とする。 ・講義後半では、感性に関する評価研究例や実際の感性に働きかける製品事例をプレゼンテーション形式で各自発表し、その後質疑応答を行う。						
注意点	・本教科の英語表記は、Kansei Engineeringである。 ・1単位当たり30時間の自学自習を必要とする。 ・普段から積極的な姿勢で、新聞、雑誌、論文などから感性についての資料を収集すること。						
実務経験のある教員による授業科目							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス				
		2週	感性とは			感性ついて理解できる。	
		3週	比較評価と独立評価			感性の比較評価について理解できる。	
		4週	比較評価と独立評価			感性の独立評価について理解できる。	
		5週	識別による評価と解析			感性の識別による評価について理解できる。	
		6週	識別による評価と解析				
		7週	識別による評価と解析				
		8週	識別による評価と解析				
	4thQ	9週	評価尺度について			感性の評価尺度について理解できる。	
		10週	評価尺度について				
		11週	SD法による評価と解析			感性のSD法による評価について理解できる。	
		12週	SD法による評価と解析				
		13週	感性評価と製品開発			感性に関する評価研究例や実際の感性に働きかける製品事例を理解する。	
		14週	感性評価と製品開発				
		15週	感性評価と製品開発				
		16週					
評価割合							
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50
専門的能力	20	20	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
プレゼンテーション力	0	10	0	0	0	0	10